



知って 考えて 実践する 国際看護

著：近藤麻理／医学書院

定価：1,890 円(本体 1,800 円＋税)／TEL：03-3817-5657

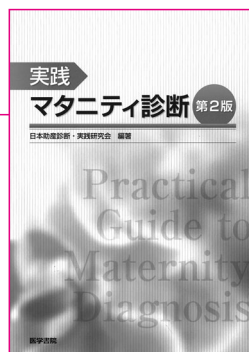
■実地の授業作りに役立つと好評だった本誌連載が1冊に。看護は本来、国境も、人種も、文化も超えたものであり、看護師である以上「人生のどこかでプロフェッショナルとして国際看護にかかわる可能性がある」(「はじめに」より)。国際看護の現場とはどのようなものか。本書は、著者の豊富な知見を通し、さまざまな NGO や政府機関の現状を多角的に伝えてくれる。看護を切り口に世界の事象を捉え直すことから、「国際看護」は始まる。

実践 マタニティ診断 第2版

編著：日本助産診断・実践研究会／医学書院

定価：3,990 円(本体 3,800 円＋税)／TEL：03-3817-5657

■マタニティ・サイクル(妊娠期から新生児までの各期)に準じたアセスメントし、より健康な生活への行動変容を促すためのケア計画を、事例と診断基準・診断名を関連づけながら解説し、助産・母性看護領域のプロフェッションを力強くサポートする。マタニティ・サイクルの診断類型と診断名をまとめた『マタニティ診断ガイドブック』(2010 年)のより詳しいテキストとして。



看護診断ハンドブック 第9版

著：リンダ J. カルベニート＝モイエ／監訳：新道幸恵・訳：竹花富子／医学書院

定価：3,990 円(本体 3,800 円＋税)／TEL：03-3817-5657

■カルベニート＝モイエの“Handbook of Nursing Diagnosis”，第 13 版の日本語訳。人々に安全な医療を提供するために、医学の高度化・専門化は加速し、その協働と連携の重要性が増すなかで、看護実践における共通言語としての看護診断への期待は大きい。新たに加えられた第 3 部，22 の共同問題は、複雑化する合併症への介入と根拠を明確に整理して伝える。

悲嘆とグリーフケア

著：広瀬寛子／医学書院

定価：2,250 円(本体 2,400 円＋税)／TEL：03-3817-5657

■家族や大切な人を失った人への「グリーフケア」の大切さを言う声は、耳新しくなくなった。本書は、グリーフケアとサポートグループの運営に長年かかわってきた著者の貴重な体験を軸に、語ることの大切さを訴える。第Ⅲ部「看護師自身のためのグリーフケア」では、「感情労働」のなかで、感情の表出を抑えられてきた看護師のピアサポートに焦点をあて、支えあう仕組みについて考える。いま、すべてのナースに届けたい。





看護学教育Ⅳ

看護学教育の質と評価

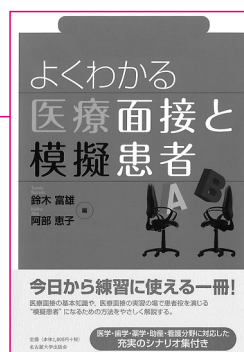
編：日本看護系大学協議会広報・出版委員会／日本看護協会出版会
定価：3,150 円(本体 3,000 円＋税)／TEL：03-5778-5640

■わが国の看護系大学における、平成 19～21 年度の活動、看護学教育の質保証に向けた取り組みと、高度実践看護師——専門看護師——教育の現状と動向を報告する。特に第Ⅱ部では、各領域における専門看護師に期待される到達点——審査基準——を明示し、わが国における高度実践看護師の将来像を展望する。第Ⅲ部として、看護系大学教育の発展と歴史を総括する基本データ所収。

よくわかる医療面接と模擬患者

編：鈴木富雄・阿部恵子／名古屋大学出版会
定価：1,890 円(本体 1,800 円＋税)／TEL：052-781-5027

■医師が患者と初めて出会う外来の場。医師は、その限られた時間のなかで、患者の体調を問ひ、様子を観察し、検査を指示し、鑑別診断を下し、治療法を選択して薬剤の処方決定しなければならない。しかも、感じよく！本書は、名古屋大学で 10 年以上にわたって蓄積された医療面接教育と模擬患者育成の成果を、あますことなく伝える。各分野に対応した「充実のシナリオ集付き」(帯より)。

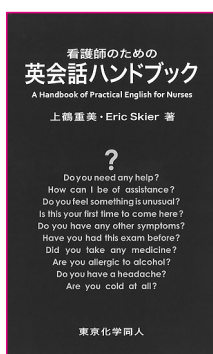


看護師のための

英会話ハンドブック

著：上鶴重美・Eric Skier／東京化学同人
定価：1,890 円(本体 1,800 円＋税)／TEL：03-3946-5311

■医療ツーリズムの本格化を待つまでもなく、医療機関を受診する外国人は少なくない。英語圏の人ばかりが来日するわけではないが、共通語として、まず身につけたいのが英会話。本書は、外来・一般病棟・周手術期・検査と状況を分け、よく話される内容、必要なひと声、より丁寧な表現、より切迫した表現など、現実に即応したやり取りを、誤解を生まないわかりやすい単語を用いて解説する。



赤ちゃんの死へのまなざし

両親の体験談から学ぶ周産期のグリーフケア

編著：竹内正人 著：井上文字・井上修一・長谷川充子／中央法規
定価：2,100 円(本体 2,000 円＋税)／TEL：03-3379-3861

■死産を経験したご家族の心は……。編者の竹内正人氏は、「両親、家族にとっては亡くなくても大切な赤ちゃん(ヒト)である」(本文より)という視点に気づくことで、産科医としての「アイデンティティー・クライシスの長いトンネルから、ようやく抜け出せた」(同)と感じたという。誕生の喜びと死の悲しみが同時にやってくる周産期のグリーフケア。その難しさのなかに、ケアの本質がある。

